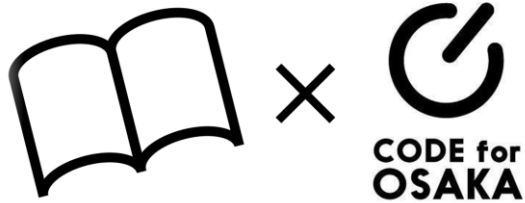


RIGP(アールワングランプリ) 可視化と経験で レファレンス向上



CODE for OSAKA

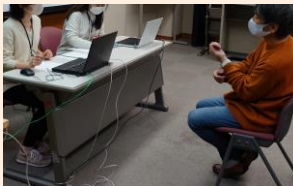
祝!

第7回図書館レファレンス大賞
図書館振興財団賞受賞!!

図書館ラボプロジェクト (Code for OSAKA×大阪市立図書館)

RIGP(アールワングランプリ)とは...

大阪市立図書館有志と Code for OSAKA とで実践している取り組みです。相談者を立て、実際にヒアリングを実施しながらレファレンスを実施します。観覧者は、レファレンスの様子を観察しながら付箋に気付きを記入していきます。レファレンス終了後、観覧者の気付きをフィードバックしていきます。



・ヒアリングは5分ほど。レファレンスは20～40分ほどの制限時間で行います。

・1名でレファレンスを行う個人戦、2～3名で行うチーム戦、両方開催しています。

・それぞれ異なるテーマをレファレンスするケース、同じテーマをそれぞれがレファレンスするケース、両方開催しています。

RIGPがめざしていること

RIGPは相談者に寄り添うスキルを磨くため、正しい情報よりも相談者と一緒に探るテーマを設定します。

RIGPが取り扱いたいレファレンスは
意地悪で難易度が高く、そして面白い

- ① 素早く、必要な情報を収集する
- ② 探しにくい情報を、しっかり正しく探す
- ③ **その人が欲しい知識を探し出す**

Googleが得意
レファレンスが得意

人が掘り下げる=人でしかできない

レファレンスのお題は、質問者が本当に知りたいこと!

RIGPでの可視化① (相談者の気持ち)

ヒアリングや報告のプロセスで、どう相談者の気持ちが変わるかを表現することで、どういうやりとりが相談者の寄り添っているかを可視化しています。



これまでの開催

2020年9月から実施編6回、事例の紹介も行っています。

開催日	内容	参加人数	概要
2020/9/25	RIGP 1回目	質問者1名、相談者4名、観覧者5名	オンラインで、検索vs司書リファレンスで開催
2020/12/16	RIGP 2回目	質問者1名、相談者6名、観覧者5名	教育・スキル可視化にシフトし、対面での開催
2021/1/29	事例発表	オンライン100名弱の参加	「ビジョンとUXデザイン～HCD事例発表会+FXフォーラム～」にて取り組み紹介
2021/3/12	RIGP 3回目	質問者1名、相談者6名、観覧者5名	対面開催、チーム力を発揮するため3名ほどのチームで実施
2021/8/2	RIGP 4回目	質問者1名、相談者6名、観覧者8名	運営になれてきたのでオンラインで開催
2021/8/16	勉強会	17名	これまでの活動で見えてきたことを図書館関係者、学校司書にも参加頂き発表
2021/8/23	RIGP 5回目	質問者1名、相談者6名、観覧者14名	それぞれのやり方を強調する同一テーマでのレファレンスをオンラインで開催
2021/11/5	RIGP 6回目	質問者1名、相談者5名、観覧者18名	第5回と同様の実施方法。観覧者との情報交換時間を多くとった。
適宜	事例発表	毎回オンライン20名程度の参加	Code for OSAKA月次定例会で、開催状況や見えてきた成果を発表し、参加者より意見を収集

RIGPでの可視化② (レファレンスのスキル)

レファレンスの様子を観覧者は観察し、気付きを付箋に記載していきます。レファレンス終了後、大量の付箋をグルーピングしながら、どういう態度やスキルがレファレンスの質を向上させているかを全員で学び合います。自分のレファレンスを客観視される経験そのものが司書の楽しさにつながっています。

KPTの利用

K(Keep)、P(Problem)、T(Try)で書き出ししていく手法



観覧者にはいっぱい褒めてください。Pが1つあるならKは10ぐらいを目標に。そのためにはちゃんと細かいことを観てください!と依頼。継続参加し、積極的に参加・学習するために、大量のKeepが有益。

多く出てくるKeepの要素をまとめ、楽しく継続していくRIGPはセルフチェックを作っています。観覧者が第三者チェックした内容やアドバイスを、レファレンス担当へフィードバックすることで、コミュニケーションを促進し、チームの質を高めて実務での高い協力関係を構築することを狙っています。
今後は、継続開催し、レファレンス業務担当者の育成、ノウハウの可視化と蓄積を行います。他の図書館との対抗戦により、より多様な観点で学ぶ、動画コンテンツを作成するなど、レファレンスの魅力の広報も進めます。

大量の付箋!

観覧者	観覧者
<p>1. 質問者の質問からすると、必ずしも検索結果が正しいとは限らない。むしろ、検索結果が間違っている可能性がある。</p> <p>2. 検索結果が正しいとしても、検索結果が多すぎて、必要な情報が埋もれている。</p> <p>3. 検索結果が正しいとしても、検索結果が古い情報である可能性がある。</p>	<p>1. 質問者の質問からすると、必ずしも検索結果が正しいとは限らない。むしろ、検索結果が間違っている可能性がある。</p> <p>2. 検索結果が正しいとしても、検索結果が多すぎて、必要な情報が埋もれている。</p> <p>3. 検索結果が正しいとしても、検索結果が古い情報である可能性がある。</p>